



本と子ども●大人にできること



秋も深まり、コロナで「おうち時間」が増える中、お子さんと一緒に読書を楽しんでいるご家庭も多いことと思います。今回は『この本読んで！2021 秋』に掲載されている『子どもを読書好きにするために親ができること』（小学館）の著者白坂洋一さんのお話をご紹介します。子どもに読書の楽しさを知ってもらうために大人にできることは、本と出会うきっかけづくりであり、大人と子どもがともに楽しむ雰囲気づくりが大切と話されています。白坂さんが提案する子どもが本と出会うきっかけづくりの中から4つを抜粋してご紹介します。



1 幼いころから読みきかせをする

子どもと本との最初の出合いは、読みきかせです。子どもが小さいときから、読みきかせを繰り返し行って、読書の経験値を積み重ねていきましょう。…あくまで、子どもが興味を持ったものを読んであげる。それを続けていけば、やがて子どもは自分で読もうとし始めます。それまでの間、大人がしっかり手をかけてあげることが大切だと思います。

2 子ども専用の本棚をつくる

子どもが読書好きになるために大人ができることのひとつに、環境づくりがあります。子どもと本が仲良くなる環境、本のある生活が当たり前になるような環境づくりです。環境のひとつに、子ども専用の本棚があります。カラーボックスのような小さな本棚がかまいません。そのとき大事なのは、本棚に入れる本を選ぶ主導権を子どもに与えることです。

3 本をプレゼントする

子どもが本好きになるかどうかは、夢中になれる本に出会えたかどうかにかかっています。そのひとつの方法が、本のプレゼントです。本を選ぶときは、その時期、何に興味を持っているかを注意深く見守ります。子どもの好きの中心軸が見つかったらそれを大事にしながら、「だったらこの本を読んでみたら」とプレゼント本を選ぶのです。

4 上手に感想を尋ねる

子どもが読んだかどうか確かめたくて、テストをしてしまう大人がいますが、そうすると子どもは読むことが嫌いになってしまいます。…本をめぐる感想の交流が大切なのです。大人の感想もぶつけてみてください。本には様々な読み方があること、それを話し合うのはすごく楽しいということを、子どもは実感していきます。



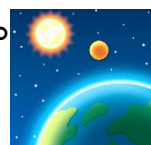
人と人が会うことが気軽にできないコロナ禍での子育ては、不安や孤独も多くなります。それでも笑顔をお忘れず子育てに励むママたちの姿、とっても輝いています♥



(4月～7月の「絵本と一緒」「キッズ・リトミック」「ベビー・マッサージ」にて)



8月「天体望遠鏡づくりと地球・月・太陽のお話」開催。小学生のみんなは、おうちのかたと天体望遠鏡も作成。なぜ？どうして？・・・科学の不思議に触れました。



(あそびの広場「わくわく科学」にて 【講師/市川哲彦/子ども宇宙未来の会】)

発行：子ども家庭支援センター・きこりん

奥多摩町小丹波 108 番地

TEL：0428-85-2611

相談専用：0428-85-1788

相談専用メールアドレス kikorin@town.okutama.tokyo.jp

インターネット：「奥多摩町 きこりん」 または



で 🔍 検索

